



医療法人山陽会 長門一ノ宮病院
4階病棟便り 「だんだん」第5号
山口県下関市形山みどり町17番35号
TEL:083-256-2011
FAX:083-256-9004
発行責任者 稲野 秀
令和7年7月1日発刊



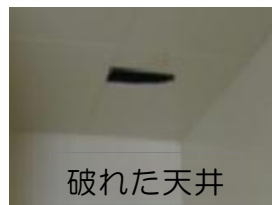
<http://www.nagatoichinomiva-hp.com/>

病棟増築について

児童思春期専門病棟担当医 稲野 靖枝

「だんだん」も5号を無事に発刊することができました。

児童思春期専門病棟も今年で開設7年目となりました。児童思春期病棟は、もともと成人の方を対象とした開放病棟を改装し、児童思春期病棟として使用しています。そのため、構造的には強度が弱く、器物破損をする子どもさんが入院してくると、大抵、どこかが壊れていました。特に



破れた天井

刺激に弱く、興奮しやすい子どもさんには、保護室という刺激が少なく、危険行



破れた壁

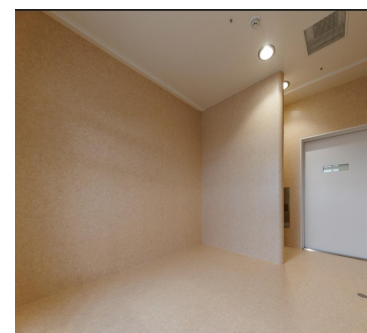
為が起きにくい部屋を使用してもらいます。しかし、この保護室も他の部屋よりは、壊しにくく、壊れにくい構造にしていますが、それでも興奮したり、物を壊すつもりのお子さんには、対応できないことが多々ありました。また、そうし

た保護室が2部屋しかないため、その部屋が空き、再度使えるように修理が済むまでは、入院希望があってもお受けすることができませんでした。この状況を何とかしたいと思っていましたところ、ちょうど施設の老朽化で職員スペースを建て直す計画があり、本来2階建て程度の建物を計画していたものを、急遽、設計を変更してもらい、強度のしっかりある保護室の増築をすることにしました。新しい部屋は壊しにくい素材でできた部屋や、頭突きなどの自傷行為で怪我をしないように壁や床が柔らかい部屋にするなど、子どものいろいろな状態に柔軟に対応できるようにしました。

昨年9月から始まった建設工事の様子を見て、何が建つのだろうと思った方もいらっしゃるかも知れません。令和7年3月中旬に病棟の北側に新しい増築棟が完成し、新しい保護室エリアとして、4月1日より使用を始めました。これまで入院を待っていただいていた方や緊急の入院が必要な方から対応を始めています。

これから、ご家庭や学校などで自身の行動がコントロールできずに困り、入院を希望する方に、あまりお待たせせずに対応できるようになればと思っています。

できれば入院せずに困り事が解決できれば一番良いのですが、状態が良くなるには入院しかないという場合には、タイミング良く対応できればと思います。



床壁がソフト素材の部屋



床壁がハード素材の部屋



新館北棟

*「だんだん」のバックナンバーは、
ホームページでご覧いただけます。

4階病棟の作業療法について紹介します

作業療法士 渡邊 正寿

入院中の子どもたちは、毎日午前中は学習を行い、昼食の後は14時から活動で過ごします。この午後の活動を“作業療法”と言います。今回は、この作業療法について説明いたします。作業療法は、英語ではOccupational Therapy（オキュペーショナルセラピー）と言い、略してOT（オーティ）と呼ばれます。

作業療法（OT）は、アメリカで確立されたリハビリテーション技法の一つです。精神科においては、主にみんなで作業（ものを作る。運動する。レクリエーションを楽しむなど）を行なうことによって、気持ちの回復を行なったり、新しい技術を身に付けたり、基礎体力の向上を行なったりします。イメージとしては、学校での体育、図工、技術家庭、音楽などの時間に近いかもしれません。

また当院の治療プログラムの一つとして、土曜や水曜に行っているSST（人との関わりの練習）で学んだことの実践の場でもあります。上手に周囲の人と関わっていけるように、スタッフは援助を行っています。

1週間の作業療法の内容を紹介します



月曜、木曜、金曜の午後は、子どもたちは当院のグラウンドか作業療法室に移動して体を動かす活動を行います。それぞれチームを組んで、ボッチャやポートボールなどを楽しんでいます。またグラウンドを走ったり、なわとびをしたりして、体力の維持向上も図っています。

活動の中で子どもたちには、「競技のルールを理解して守っていく」「自分に難しいことは相談できる」「仲間を思いやる」「あまり勝ち負けにこだわらない」「楽しむことを大切にする」「知らないことに挑戦してみる」などを身に付けてもらうように、スタッフは工夫を行っています。

体力作りにランニング



雪が降ったらとりあえず
グラウンドにGO！

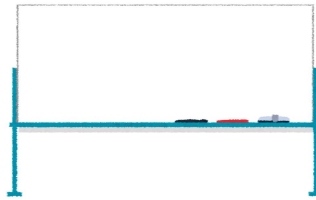
夏は水遊び！たのし～。
でもルールは守ります





毎週火曜日の午後は、「制作の時間」です。

デイルームや作業療法室を使って、様々な作品づくりに挑戦していきます。制作を行うことによって、手先の不器用さの改善を目指したり、活動の間一つの作業に集中できる、姿勢を良くするなどのリハビリテーションとしての目的も大切ですが、同時に、楽しく一生懸命取り組んで、素敵な作品が完成した時の達成感が大切だとスタッフは思っています。写真は制作の様子や完成した作品です。



水曜日の午後は、入院したばかりの子どもや学校が終わって戻ってきた子を対象に「SST」を行っています。前述のように、当院では毎週土曜プログラムとしてSSTを行っています、「世の中のルールを知って」「自分も守れるようになって」「お家や学校で実際に行えて」「自分も前より楽になる」練習は、いくら時間があっても足りないぐらいです。

水曜の「SST」は認知機能を向上させるコグトレ®(認知機能強化訓練)と、問題行動の改善を目的とする「レベル5」と「問題解決法」を中心に「SST」を行っています。



書籍紹介

「マンガ ネコでもできる！認知行動療法」

大野 裕 著、ねこまき 画 SB Creative

現代社会はストレス社会と言われるほど、日常がストレスにあふれています。適度なストレスは人の成長を促してくれますが、過度なストレスは心身の不調に繋がります。

認知行動療法は、「認知(現実の受け取り方やものの見方)」に働きかけて、こころのストレスを軽くし、心身の不調を治していく治療法(精神療法)です。

この本は、認知行動療法を応用して、生きづらさを感じている人が、ラクになり、前向きになる方法を、マンガを取り入れて、わかりやすく、かつ、取り組みやすく紹介している一冊です。

人は誰もが、困難を乗り越え回復していく力(レジリエンス)を持っています。

この一冊は、このレジリエンスを高めてくれる一冊になるのではないのでしょうか。



「マンガ APD(聴覚情報処理障害)/LiD(聞き取り困難)って何!？」

きよこ 著 合同出版

聴覚情報処理障害(APD:Auditory Processing Disorder)という言葉が聞かれたことはありますか？「聞こえる」と「聞き取れる」には大きな違いがあります。大抵の人は「聞こえれば」「聞き取れます」が、APDの人たちは、聞こえるのに聞き取ることができず、日々、困っています。この本は、そうした「聞き取ること」に困難さを持っている人について解説し、検査や対処方法などについてわかりやすく描いています。巻末には、コピーして使える「APD・LiDの人のトリセツ」も付いています。

自分や身近な人が「もしかしたらAPD・LiDかも？」と気づくだけでも支援につながることもあります。”支援”は”理解”から始まります。APD/LiDは発達障害に合併していることもあります。APD/LiDの理解を深めることは、障害を持つ人の支援をバージョンアップするだけでなく、健常な人にもわかりやすい環境をつくり、インクルーシブな社会に近づける一冊になるかもしれません。



(紹介者 稲野 靖枝)

<編集後記>

暑さが次第に強まっていく季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。私がこの編集後記を書いている頃に何かと話題を集めている大阪万博は、日本で開催された万博としては6回目にあたります。だんだんの発行も早5回目。あと少しでその数字に追いつきそうです。2025年開催の大阪万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマとなっており、「すべての人が幸せに生きることができる社会について考えよう」という思いが込められているそうです。

この思いは、私たちスタッフの、子ども達への思いにどこか通ずるものがあります。変化がめまぐるしい世の中で、未来を担う子ども達が輝ける可能性と権利を最大限に活用できる・安心して成長できる。そのような環境を提供できるよう、スタッフ一同より一層励んでまいります。<M.I.>

